

〔科目名〕 金融経済学Ⅰ	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕 専門科目 基幹科目
〔担当者〕 山本 俊 Yamamoto Shun	〔オフィス・アワー〕 時間:第1回の授業で連絡します。 場所:第1回の授業で連絡します。	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 皆さんは「金融」と聞くと、まずは「おカネの貸し借りのことでしょ!」と思うのではないのでしょうか。これは金融の基礎的な具体例でありながら、金融の特徴をしっかりとらえています。第1は、おカネの貸し借りは「異時点間にわたる」ということです。通常、おカネを貸し借りするとき、「いついつには返済します(返済してくださいね)」という約束が交わされることから明らかでしょう。第2は、おカネの貸し借りが異時点間にわたるということは、貸し借りがなされた時点から、返済がなされる時点までの不確実性に直面するということです。しばしば、時代劇やテレビドラマなどでも目にする、「すみませんが、借りたおカネの返済を、もう少しまってもらえませんか。返済できると思っていたのですが、予想以上に来客数が少なく、私も思うように頑張れず、返済できそうにもありません」というシーンからも、借り手や貸し手の見込みがはずれ、期日に返済できない、返済されないことがあることは明らかです。つまり、おカネの貸し借りには不確実性をともなうのです。 金融経済学Ⅰでは、こうした金融の特徴を、経済学、特にミクロ経済学の考え方をもとに整理し、経済学的な意味を理解し、説明できるようになって欲しいと考えています。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け）・「なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 1. 他の科目との関連付け 金融経済学Ⅰでは、ミクロ経済学の考え方を基本としますので、ミクロ経済学の十分な理解が必要です。特に、消費者理論、不確実性、情報の経済学に関する部分、統計学の期待値や標準偏差についてはもう一度目を通しておくとう理解が進むでしょう。なお、金融経済学Ⅰは金融関連の基幹科目に位置付けることができます。 2. 学んだことが何に結びつくのか? 皆さんはご自身の将来をどのようにお考えでしょうか? 人生の大部分は仕事の時間であり、経営者としてあるいは雇用された者として目的の達成のために、資本や労働力の確保にも向き合うことになるでしょう。ここでの資本とは、いわゆる設備や工場などの生産手段を指し、これを確保するには、銀行や投資家からおカネを調達することが一般的です。また、仕事から離れて個人としての人生を考えてみても、いわゆる人生の3大資金(何だかわかりますか?)がライフサイクルに従って必要になり、そこに向けたおカネの調達を避けることはできません。これらは資金調達と呼ばれますし、将来の資金調達に向けて、おカネを債券(国債や社債など)や投資信託、株式、外貨建ての預金に変えて保有し、キャピタルゲイン(値上がり益)やインカムゲイン(利子や配当による収入)を得ようとすることもあるでしょう。これは資産運用と呼ばれ、資金調達とともに、意思決定に必要な知識や判断力を身につける必要があります。そのために、金融経済学Ⅰを通じた学修が役立ちます。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 1. 最終目標 資産運用と資金調達に関する意思決定を適切に行うための知識や判断力を身につけること。 2. 中間目標 ①現在の日本における金融に関するトピックスについて、報道等を「正しく」理解できるようになること。 ②ミクロ経済学の応用によって、日常的な取引に潜む経済学的な意味を理解できるようになること。 以上の目標を達成するためには、金融に関連する新聞記事や、ニュースを、授業で学んだことに関連付けて見るようにすることが大切です。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 この科目を青森公立大学にて担当したことはないため、該当しません。		
〔教科書〕 金融経済学Ⅰでは教科書を使用せず、配布する授業資料に基づいて授業を進めます。 なお、授業資料の作成では、主に、下記の指定図書、参考書を参照しています。		
〔指定図書〕 内田浩史『金融(新版)』有斐閣、2024年		
〔参考書〕 晝間文彦『基礎コース 金融論 第4版』新世社、2018		

〔前提科目〕 ミクロ経済学、応用ミクロ経済学、統計学 上記 3科目いずれかの単位を修得していない人も、本科目を履修できます。ただし該当科目のシラバスに紹介されている書籍の自習を強く勧めます。	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 以下の方法によって成績評価します。 ①授業内クイズ:30%(理解を深められるよう授業内で解説をします) ②期末試験:70%(択一式と記述式の併用) ※評価の前提として、原則、全授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。	
〔評価の基準及びスケール〕 ①授業内クイズ及び②期末試験については、「資産運用と資金調達に関する意思決定を適切に行うための知識や判断力」、「現在の日本における金融に関するトピックスについて、報道等を「正しく」理解できる」、「ミクロ経済学の応用によって、日常的な取引に潜む経済学的な意味を理解できる」という視点を評価できるような出題とし、以下のスケールに則って評価します。 A:80%以上。B:70%以上 80%未満。C:60%以上 70%未満。D:50%以上 60%未満。F:50%未満。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 ①この授業においては、「何故なのか」という視点に立ち、理論的、実証的根拠のある解説を強く意識します。 ②ミクロ経済学などの基本事項は授業内でも可能な限り補足説明するよう意識します。 ③学生が授業内容を聴き、考える時間と、学生が授業内容を整理する時間を区別するよう意識します。 ④第1回目の授業において、授業の進め方や評価方法などにつて補足説明します。 ⑤学生には、他の受講生を意識した高い受講マナーを期待します。	
〔実務経歴〕 特に、なし。	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第1回	テーマ(何を学ぶか):ガイダンス、金融リテラシーと金融の特徴 内 容: まずは、シラバスに基づいたガイダンスです。その上で、金融を学び、金融に関する知識や判断力といった金融リテラシーを高めることができれば、金融に関する行動や判断力にどんな変化が期待されるのかを、金融リテラシー調査をもとに考察します。さらに、金融取引に関する身近な事例紹介を通じて、金融仲介機関の役割や金融取引に関する諸問題について考えてみましょう。 指定図書 第1章
第2回	テーマ(何を学ぶか):貨幣の機能と時間価値 内 容:貨幣の機能を経済学の視点から定義し、それと関連付けながら、決済システム、貨幣の時間価値、フイッシャー仮説について考えます。さらには、貨幣の暮らしの中での多様な機能を理解する意味でも、貨幣の民俗学的な機能についても考えてみましょう。 指定図書 第1章、第2章の前半
第3回	テーマ(何を学ぶか):私たちがおカネを貸借する理由 内 容:ここでは、私たちがなぜ、おカネを貸借するかということについて、ミクロ経済学の消費の理論をもとに分析し、異時点間消費の最適化について考えます。特に、貨幣の使用に関する性急さや利子率の変化が異時点間消費の最適化に与える影響について理解を深めます。 指定図書 第2章
第4回	テーマ(何を学ぶか):おカネの具体的な貸借 内 容:ここでは、政府や企業が資金借入れの手段として発行する債券を例に、貸借される金額としての債券価格と利子率の関係についての理解を深めます。 指定図書 第2章
第5回	テーマ(何を学ぶか):金融取引における様々なリスク 内 容:金融取引は異時点間にわたることからリスクをとめない、これらが金融取引を阻害することを学びます。また、効用関数を用いてリスクを計測する指標や、返済から得られる収入の期待効用を高める方法についても考えます。さらに、情報の非対称性がもたらす2つの問題についても考えます。 指定図書 第3章、第4章

第6回	テーマ(何を学ぶか):金融取引におけるリスクの軽減手段 内 容:金融取引におけるリスクの軽減手段を期待効用の考え方をもとに学びます。特に、流動化、証券設計、情報生産、担保・保証がどのような仕組みでリスクを軽減するのかを考えます。 指定図書 第5章、第6章
第7回	テーマ(何を学ぶか):分散化によるリスクの軽減 内 容:ここでは、リスクの軽減方法として、いくつかの金融資産が組み入れられたポートフォリオによる分散化を考えるために、統計学で学んだ期待値や標準偏差、相関係数を導入します。 指定図書 第7章
第8回	テーマ(何を学ぶか):2つの金融資産からなるポートフォリオの評価 内 容:2つの金融資産(危険資産と安全資産、危険資産と危険資産)からなるポートフォリオを想定し、収益率の相関係数や組み入れ比率の違いによって、ポートフォリオの期待収益率やリスクがどのように変化するのかを学びます。<u>第7回までの学修内容を範囲としたクイズを実施する予定です。</u> 指定図書 第7章
第9回	テーマ(何を学ぶか):複数の金融資産からなるポートフォリオの評価 内 容:第8回の学修をもとに、複数の危険資産からなるポートフォリオに安全資産を組み入れることで得られる効率的フロンティアについて学びます。また、<u>前回のクイズについて解説し、講評を申し上げます。</u> 指定図書 第7章
第10回	テーマ(何を学ぶか):最適ポートフォリオの選択 内 容:第9回にて描き出した効率的フロンティアに、危険回避者を想定した無差別曲線を重ねることで、期待効用を極大化する最適ポートフォリオを選択します。さらに、効率的フロンティアを決定する(危険資産からなる)ポートフォリオは、どのような選好を持つ投資家であっても同一になるという強い結論についても考察します。 指定図書 第7章
第11回	テーマ(何を学ぶか):金融仲介機関の産業組織と機能 内 容:貸し手と借り手をつなぐ金融仲介機関の産業組織と機能について考えます。例えば、みなさんにとって身近な銀行と協同組織金融機関では、どのような違いがあるのでしょうか。東日本大震災におけるエピソードも踏まえながら考えてみましょう。 指定図書 第8章
第12回	テーマ(何を学ぶか):金融市場のタイプと機能 内 容:貸し手と借り手が出会う金融市場の種類と機能について考えます。例えば、短期金融市場や資本市場にはどのようなタイプがあり、どのような役割を果たしているのでしょうか。 指定図書 第9章
第13回	テーマ(何を学ぶか):株式の理論価格を決定する配当割引モデル 内 容:第12回の授業では、金融市場の機能の一つとして、証券の理論価格を決定するということを学びました。ここでは、株式の理論価格を決定する配当割引モデルについて考えます。 指定図書 第9章
第14回	テーマ(何を学ぶか):裁定と金利の期間構造 内 容:配当割引モデルには、いくつかの問題点がありますが、そのひとつに各々の株価が将来の配当の大きさによって独立に決まると想定している部分にあります。しかし、実際には、各々の株価は独立に決まるのでしょうか。ここでは、複数の証券価格が互いに影響し合うことを考慮可能な裁定理論を学び、それを応用して、金利の期間構造について考えることにします。 指定図書 第9章

第 15 回	テーマ(何を学ぶか):これまでの学修をもとにした住宅ローンの検討 内 容:皆さんが青森県において住宅を購入するために、住宅ローンを組みと想定し、これまで学んだ知識や考え方をもとに、金融仲介機関の選択、借入審査の内容と意義、ローン契約のタイプ別特徴、諸費用、ローン返済額の目安などについて考えてみましょう。 指定図書・参考書 該当なし
試 験	期末試験(択一式と記述式の併用)を実施します。出題範囲などを授業内で連絡します。